

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	観光名所（従業員）	来客数の動き	・来客数が例年を大きく上回る状況が続いている。特にインバウンドの個人客と若者の小グループ客による利用が増えている。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・9月の売上は2023年比で107.5%、2022年比で185.5%、2021年比で524.2%、2020年比で421.7%、2019年比で118%となっている。豪華客船が複数回寄港していることもあって、景気はやや良くなっている。
	○	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・3か月前と比べて、売上の前年比が伸びている。特に日用品や季節商材の売上が増加しており、ふだん使いの商材の購買意欲が高まっていることがうかがえる。
	○	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・9月に入って暑さが一段落したためか、ランチの客足が好調で売上は前年を超えた。例年9月は地域の食のイベントに客が流れるが、今年は影響が少なかった。また、スタッフの健康面についても、暑さが落ち着いたことで、夏バテなどの問題がみられなかった。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・観光シーズンを迎えて、観光客に動きが出てきたことから、景気はやや良くなっている。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・国内観光客が好調をキープしていることもあって、8月以降、来客数が高止まりしている。連休中の入込も好調に推移した。インバウンド需要が増加していることもプラスである。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・国内線の利用客数の推移をみると、夏季繁忙期に入った7月はコロナ禍前と同水準であったが、8月は台風などの影響もあって、前年をやや下回った。国際線は、韓国便が好調を維持していることに加えて、中国便が増加したこともあって、大きく増加した。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・客への聞き取り調査から、国内旅行については、ホテルの宿泊料金が高騰していること、全国的に気温が高く真夏日が続いていたことが、需要の減少につながっている。海外旅行については、世界情勢などの不透明感が強いいため、需要が伸びなかったとみられる。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・3か月前と比べると、問合せ件数が増えている。海外旅行に関する問合せも増えている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数がコロナ禍前の水準に回復している。一方、商材の客単価の2極化が進んでいる。趣味し好に関連する商品は高額でも売れるものの、ニーズ商品はより安い物を求める傾向が強くなっている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・9月の北海道は災害が少なく、天候にも比較的恵まれたことから、人出が好調に推移している。日本人旅行客も好調を維持しており、商店街はにぎわっている。ただし、今年は暑い日が多く、秋を感じないまま冬を迎えそうなことから、ファッション系の店舗は秋物商材を中心に苦戦を強いられている。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・売上はやや減少しているが、季節要因によるものであり、全体的な傾向は3か月前と変わっていない。
	□	一般小売店（経営者）	販売量の動き	・8月に株価が暴落したが、その後、回復するにつれて、売上も回復してきた。
	□	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・9月に入り、インバウンドが大きく減少している。円高に振れ始めた影響もあるが、好調な首都圏と比べると、北海道を訪れる観光客は減っている。この傾向は年末まで続くとみられ、しばらくの間は景気が横ばいで推移することになる。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・気温の低下とともに、衣料部門や住宅余暇部門の秋冬物商材、暖房関連商材が売れるようになってきた。一方、食料品の買上点数は落ち込んだままであり、客の節約志向が根強いことがうかがえる。
□	スーパー（役員）	お客様の様子	・2度の3連休があったことから、引き続き観光客が増加している。居酒屋関係者のまとめ買いも増加している。	

<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・新米が出回るまで米不足が続いていたため、納品された米がすぐに売れるなど、一時的には売上や来客数の増加がみられた。ただし、客の生活防衛意識が強まっている状況は変わっていない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・本来であれば、秋物商材の投入が進むにつれて、客の興味が増し、販売量が上向いてくる時期だが、今年は客の反応が余り良くない。景気の良さを感じられない状況が客の購入意欲の低下につながっている。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・必要な物を必要な時期に買うという客の動きに変化がみられない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・決算期ということもあって、サービス部門も含めて、売上や販売量はかなり良い状況であった。ただし、他社と比較すると厳しい面もみられた。店舗間のばらつきも大きく、業績の良いところもあれば悪いところもあった。これらのことから、全体的な景気は余り変わっていない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・ここ最近、出荷台数に大きな変化がないことから、景気は変わっていない。新型車の発表も遅れており、需要を刺激する材料が見当たらない。
<input type="checkbox"/>	自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	・客の様子をみると、必要な物は買う、不必要な物は買わないとはっきりしており、財布のひもが固くなっている。接客時に景気動向の話をする客も多くみられる。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・北海道も暑い日が多かったことから、体調を崩している人が多いとみられるものの、客足は鈍いままである。高齢の客にとっては、9月下旬になって急に涼しくなったこともこたえている。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	単価の動き	・石油製品価格に変動がみられないことから、景気は変わっていない。
<input type="checkbox"/>	スナック（経営者）	来客数の動き	・9月に入ってから、来客数が前年や前々年とほとんど変わらない水準で推移している。そのため、これ以上、景気が悪くなることは考えにくい。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・インバウンドを中心に客単価が上向いている。ただし、宿泊単価が上昇している分、稼働率が低下しており、全体的には現状維持で推移している。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・2024年度下期に向けて、新規の法人営業を続けているが、客から前向きな回答を得られない状況が続いている。前年に久しぶりの職場旅行を実施した企業も2年連続で実施できるほど景気が回復していない。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	来客数の動き	・9月のタクシー1台当たりの売上は前年から約5%のマイナスであった。一方、今年に入ってから、乗務員の採用が増えており、前年から約30%の増員となっている。タクシー1台当たりの売上はマイナスとなったが、稼働台数が約30%増えていることで、会社の売上は前年から約30%の増加となった。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	来客数の動き	・8月はエアコン目的の利用客が微増していたが、9月に入り過ごしやすいく気候となったことで、そうした客が徐々に減少している。また、9月に開催された食のイベントの効果で来客数が増加するようなこともなかった。全体的にはそれほど変化のみられない月であった。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	販売量の動き	・気温の変化が大きいこともあって、客の外出意欲が落ち込んでいる。業績も前年を下回っており、景気が良いという状況にはない。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	販売量の動き	・ここ3か月間、景気が若干上向きつつあるも、大きくは変わっていない。冬場を迎えると、タクシーの利用はどうしても落ち込んでいくため、今後の動向を注視していきたい。
<input type="checkbox"/>	美容室（経営者）	お客様の様子	・若干ではあるが、以前よりも旅行や外出の機会が増えており、それに伴って客の来店も増えている。
<input type="checkbox"/>	美容室（経営者）	来客数の動き	・9月の売上はやや良かったが、ここ3か月の動きをみると、来客数も売上もそれほど伸びているわけではない。

	□	住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・引き続き、住宅の販売量が減少している。販売価格も高騰したままである。
	▲	商店街 (代表者)	お客様の様子	・客の反応は決して良いものではない。景気そのものは上向しているのかもしれないが、商材の値上げ幅が大きいことがマイナスとなっている。
	▲	商店街 (代表者)	来客数の動き	・来街者数の動きをみると、9月上旬は、地域住民、道内観光客、道外観光客のいずれも増加していたものの、中旬以降は、雨模様の日が多かったこともあって、地域住民を中心に来街者が減少した。また、車両のナンバーから判断すると、道内観光客の数は大きく変わっていない一方で、道外観光客が減少していることがうかがえる。外国人観光客は、ここに来て、数人の中国人グループ客の姿が前年よりも目立つようになってきた。全体的には、景気はやや悪い状態で推移している。
	▲	スーパー (企画担当)	販売量の動き	・来客数は競合他社からの流入もあって、前年よりも伸びているものの、買上点数の減少が続いている。商材の値上げが家計に響き、客の買い控えが強まっていることがうかがえる。
	▲	スーパー (企画担当)	販売量の動き	・競合の出店があったため、来客数が減少している。ここ数年続いていた値上げの動きは落ち着いてきたものの、客単価は低迷したままである。
	▲	コンビニ (エリア担当)	来客数の動き	・米の高騰が家計に与える影響が大きいこともあって、客がコンビニで買物する機会が減っている。
	▲	乗用車販売店 (経営者)	競争相手の様子	・地域全体の受注量及び販売量が、前年を大きく下回る水準で推移している。工場への在庫量も全体的に弱含んで推移している。
	▲	その他専門店 [造花] (店長)	お客様の様子	・セール開催月であったが、来客数が見込みほど伸びなかった。また、季節商材について、需要の生じる時期が年々遅くなる傾向もみられる。
	▲	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・国内団体客については、コロナ禍以降、漸減しており、集客が伸びていない状況にある。インバウンドは、欧米からの個人客が伸びているものの、航空機燃料の不足とグランドハンドリング人材の不足を要因に、近隣空港におけるチャーター便や新規路線の就航が滞っていることから、アジアを中心とした団体客の集客が減っており、全体の集客数が落ち込んでいる。
	▲	タクシー運転手	販売量の動き	・秋の観光シーズンに入ったが、観光客の入込は今一つである。例年この時期から増え始めるコンベンション関係のビジネス客の利用がこれから上向くことを期待している。
	▲	通信会社 (企画担当)	お客様の様子	・全道的に競合他社の通信サービスへの流出が想定よりも多く、逆に流入が少ない状況となっている。特に大型量販店やイベント会場での流出が顕著である。また、9月発売の人気端末については、前年並みの客の反応がみられるものの、期待ほどではなく、想定よりも収支が悪くなっている。
	▲	美容室 (経営者)	単価の動き	・物価高の影響で客の消費意欲が低下している。
	▲	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを来訪する客の予算面での制約が一段と厳しくなっている。
	×	百貨店 (売場主任)	単価の動き	・円高、株安の影響もあって、客の買上率、客単価が低下している。
	×	スーパー (店長)	販売量の動き	・政権政党の総裁選、米国の大統領選挙の動向を気にかけている客が多く、景気はやや悪くなっている。
	×	スーパー (店長)	来客数の動き	・買う物を決めて来店する客が多く、必要な商品以外は買っていない様子がうかがえる。
	×	衣料品専門店 (経営者)	それ以外	・全国的に客の節約志向が続いている。特に当社の商材は少しおしゃれな外出着が中心であり、旅行や行事など、着ていく場面が、節約志向の影響を受けて減少している。また、9月は猛暑や台風など、天候面での影響もみられた。
企業 動向 関連	◎	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・9月の販売量は前年比プラス53%であった。3か月前の販売量は前年比プラス32%であったことから、景気は良くなっている。

(北海道)	◎	通信業（営業担当）	取引先の様子	・コロナ禍後の人流回復に伴って、経済の好循環サイクルが生じていることで、道内でも設備投資に積極的な民間企業が出てきた。人手不足を補う面もあるが、建設業でDX投資が進んでいるほか、これまでIT投資に慎重であった中小企業においても、将来の需要取り込みに向けて積極的な設備投資を行う企業が増えている。	
	○	金融業（従業員）	取引先の様子	・値上げ効果を実感しているという企業の声を聞くようになってきた。原材料価格の上昇や諸経費の増加を引き続き問題視している様子もみられるものの、利益は改善傾向にあり、それに伴ってDX投資やIT投資に前向きな企業が増えている。	
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・国内の建設投資は、公共工事も民間工事も堅調である。また、価格の適正化が徐々に進んでいることもプラスである。	
	○	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・商材の値上げなどの影響もあるが、受注案件が増えていることで、数か月前の予測よりも実際の売上が増える傾向がみられる。ただし、ベース商材の動きは低迷しており、市場の動きは2極化している。	
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・発注量は多いものの、設計や施工の人手不足で受注できないケースが増えており、発注量の調整が行われている。忙しい状況ではあるが、作業の手配など、今までにない作業が増えたためであり、景気が上向いているわけではない。	
	□	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・天候に恵まれていることで、引き続き各現場の工事進捗に遅れなどはみられず、順調に出来高が積み上がっている。	
	□	輸送業（支店長）	受注価格や販売価格の動き	・農産物の発送業務が本格化したこともあって、貨物量が増加傾向にあるものの、港湾作業員やドライバーなどの人手不足が課題となっている。残業時間の上限規制の影響で、対応し切れない状況も生じている。また、料金改定について、荷主から満額回答をもらえていないケースもあり、忙しい割に収益が伴わない状況が続いている。	
	□	司法書士	受注量や販売量の動き	・新たな取引に伴う案件ではなく、過去に登録していなかった案件の依頼が多いことから、身の回りの景気は良くなっていない。	
	▲	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全国的な猛暑の影響が計り知れない。ただし、影響が大きくなるのは10月以降とみられる。また、青果物においては、石川県の大雨による影響も心配である。	
	▲	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・例年9月から受注量が増えてくるが、今年は8月の受注量をやや上回る程度にとどまっている。	
	▲	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・広告予算の削減、事業の見直しにより、取扱量が減少しており、景気はやや悪くなっている。	
	▲	司法書士	受注量や販売量の動き	・例年、受注量が増えてくる時期であり、今年も同様の水準で推移しているものの、物価上昇の影響が大きく、収益を圧迫している。今後の動向によっては、収益がマイナスに転じることも懸念される。円安が主な要因であり、国による積極的な対応策を期待したい。	
	×	—	—	—	
	雇用 関連	◎	—	—	—
		○	*	*	*
(北海道)	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は3か月前と変わらず堅調に推移している。目標に対しても上振れしており、企業の人材ニーズは変わらず旺盛なことがうかがえる。また、どの企業に聞いても人手不足は解消されていないようである。採用した従業員が短期で退職することに悩んでいる企業は多いものの、業績維持と拡大に向けて採用を控える意思はみられない。	
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・非正規雇用の求人に応募する求職者の多くが、50歳以上のシニア層かシルバー層となっており、地域の産業を担う若年層の人材不足が顕著になりつつある。	

□	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・合同説明会や相談会などのリアルイベントに参加するシニア層が前年と比べてかなり増えている。シニア層からは、物価高が進むなか、生活の足しにするため、少しでも収入を得たいとする声が多く聞こえる。ただし、求人数が減少傾向にあることから、高齢者の仕事探しは厳しい状況にある。
□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・季節要因を除けば、業種にかかわらず、求人数に大きな変化はみられない。
□	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・今年の農作物の収穫状況は比較的順調であり、当地を代表する収穫イベントも盛況に終わった。また、中規模商業施設のオープンもみられた。当地においては、好調な分野が少なからずあり、有効求人倍率も徐々に上昇している。
□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における8月の有効求人倍率は0.80倍であり、3か月前と同率であった。
□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職申込件数は前年から25.1%減少し、月間有効求職者数は前年から13.3%減少した。一方、新規求人数は前年から14.4%減少し、月間有効求人数は前年から10.6%減少した。求職者数も求人数も落ち込みが大きいことから、景気は厳しいまま変わらない。
□	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・説明会への参加企業は増えているものの、参加者数にはそれほど変化がみられない。
▲	*	*	*
×	—	—	—